

電力技術研究会専門部会シリーズ 配電専門部会

配電専門部会は、平成13年度に2回の部会を開催しました。平成14年度は、以下の4項目を活動方針として取り組んでいます。

価格競争力強化のための技術開発

お客さまから選択されるための技術開発

環境保全に関する技術開発

総合的なエネルギー供給に関する技術開発

8月26日の第89回の部会では、三重支店四日市営業所を訪問し、本年3月に運用開始された配電業務総合支援システムと配電線自動化システムについて活発な議論および意見交換が行われました。本システムでは、情報系システムである配電業務総合支援システムと、制御系システムである配電線自動化システムが合理的な機能分担をはかり、情報系・制御系の垣根を越え、緊密にシステム間連係していることを特長としています。委員より、「配電線路に連係される分散型電源は、今後さらに増加するものと予想される。その対応として、配電線電圧・電流のモニタリングに本システムを有効に活用しては」等の指導・助言をいただきました。

さらに、三重県鈴鹿郡関町関宿を訪ね、重要伝統的建造物保存地区での配電設備景観調和の実態を視察しました。裏道供給、および接続引込による無電柱化方式（バックヤード方式）による配電設備の景観調和方法について意見交換が行われました。



四日市営業所にて 社外専門委員の紹介
前列左から、長坂、佐藤、河村、渡邊、松村、松井景、横水の各専門委員



関宿の無電柱化

CIGRE (国際大電力システム会議) に各部門から参加

電力技術の世界最大の国際組織であるCIGRE(国際大電力システム会議)の第39回本部大会が8月25日～30日にパリ市内で開催されました。当社からは、日本CIGRE国内委員長である志賀正明顧問ならびに同執行委員である野嶋孝副社長をはじめ、系統・制御通信・工務・技術開発の部門から関係者が参加しました。

CIGRE本部大会は2年に1度開催され、電力システムに関するさまざまな技術問題について各国から投稿された論文をもとに討議を行うものです。今回の大会では、当社から7件の論文が採択され、発表を通じて海外の技術者と活発な意見交換が行われました。

また、大会と併設して開催される展示会に初めて出展し、当社の技術を世界に向けて発信しました。超電導電力貯蔵装置(SMES)と275kV管路気中送電線(GIL)を展示した当社ブースには、大会期間中、約600名の来場者があり、当社の技術力を各国の電力技術者に紹介しました。今後も、このような機会をとらまえて当社の

保有する技術力を世界に向けて積極的にアピールしていきたいと考えています。



CIGRE展示ブース(左側：管路気中送電線(GIL)、右側：超電導電力貯蔵装置(SMES))

超電導電力貯蔵装置(SMES)について志賀顧問、野嶋副社長を交えて海外の技術者と議論している様子

